



「治験」期間をいかに早めるかが課題であり、クロエの使命だと考えています(牧氏)

Ⅲ)で、時には世界同時に数千例の規模で行われます」
と牧氏。続けて具体的な業務内容を述べる。

「治験」期間を早める取り組み

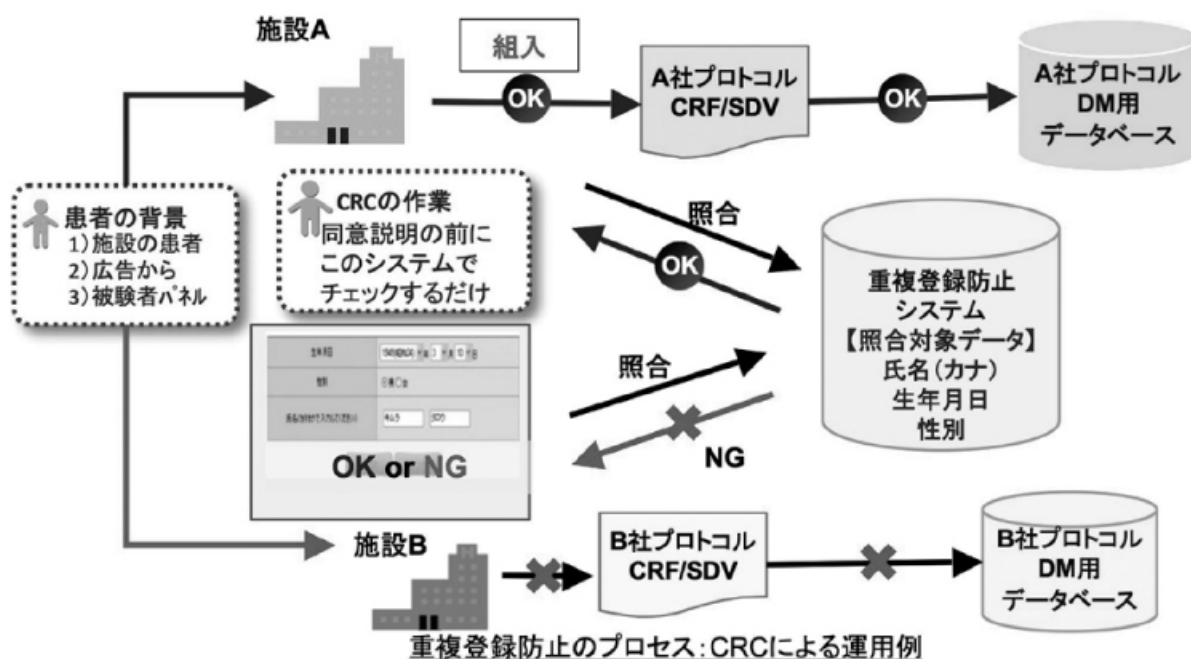
「治験には最終的な目的を評価するために定められた必要人数分のデータが必要です。人数分のデータが揃わなければいつまでも治験は終わりません。そうなれば薬の上市(じょうし)が市販されること)はどんどん遅れ、いつまでもたっても消費者は新薬を手にはできません。

一方製薬メーカーのリスクとして、

治験期間が延びると人件費などの直接経費が増加するだけでなく、ライバル会社が先に開発を終えてしまえば、パテント(特許)で守られた薬価による巨額の利益が失われることになります。当社は治験における被験者募集期間を短くする事で、このようなデメリットを解決する施策としています。豊富な実績と経験に基づいた、より効果の高い被験者募集広告の作成や、チラシなどの配布エリアの決定、コールセンターと媒体の選択、応募者に対する対応など、具体的に提案していくサービスをしています。

また治験のやり直しや失敗にもつ

重複登録防止システム「ReGuSYS(レガシス)」



重複登録を防止するシステム「ReGuSYS(レガシス)」。
重複が発覚した場合には、瞬時に情報が表示されるのでその場で被験者に確認できる

出典:クロエ